



主張するセルフ・アドボケートたち

No.26

アドボケート (advocate) とは、障害者の権利擁護のための支援・擁護・代弁する人の意味。この企画では、当事者が自ら、自分の言葉で、今の生活についての思いを発信します。

世界ダウン症の日キックオフイベント 2019 本人発表 ③

将来の夢に向かって

(佐賀県 西村 嘉浩)

西村さんは、ご自身で作成した23枚に渡るパワーポイントのスライドショー以外にも、用意した文章を読み上げながら発表しました。一部を抜粋して紹介します。

僕は佐賀県から来ました 西村嘉浩です。佐賀大学特別支援学校高等部2年生です。今日はぼくががんばっている事を紹介します。まずはバドミントンです。中体連の試合の様子です。パートナーは馬場佳照さんです。スマッシュがとくいです。



友だちの馬場佳照さんです。



水泳。やじるしがぼくです。せおよぎをしています。ようちえんのときからつづけてます。

「はーとあっとくらぶ」で書いた絵です。大きな絵を書きました。これはきょうりゅうです。みんなの世界です。笑顔のなる木です。県庁にかざってもらいました。



買い物にも、一人で行きます。ぼくたちはいろんなことにチャレンジして将来の夢につなげて行きたい。仲間と仲よくしながらがんばっていきたい。僕の夢は一人暮らしです。

さいごにこれが、ぼくの家族です。たいせつな家族です。これで、僕の発表を終わります。ありがとうございました。



僕の家族です。

キックオフイベントに参加した感想

本人より

佐賀空港から来ました。キックオフにさんかした事がとても、うれしく思います。僕が作ったパワーポイントで、発表する事が出来ました。今回は、ひとりです。ちょっときんちょうしたけど、それを、のりこえて発表をして来ました。

なかなかこのきかいをさせていただいた事がとてもうれしかったです。「キックオフ」ってゆう事でさんかする事が出来ました。ステージで、インタビューをしていただけたので、こうえいで、とてもうれしかったと思いました。そのイベントに出させていだいた僕も発表やそのきかいのイベントにださせてくれてありがとうございました。キックオフのみ

なさん、そのためにじゅんびをさせていただきかんしゃしております。(手書きの文章、そのまま掲載しています)

母より

兄からのおさがりのパソコンを手にして以来、自分で撮りためた写真をパワーポイントで編集をしたりするのに熱中していたので、何か発表の場を作ってあげることはできないかなあと思っていた時に、この企画を知り、参加させていただきました。本人の希望でほぼ無修正だったので皆さんに分かっていただけるか心配しましたが 会場の温かい反応にホッとしました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。(母 西村 公恵)

※これまで会報に掲載してきたこのコーナーの記事を JDS のホームページですべてご覧いただけます。

トップページ上段「ダウン症のあるお子さんを授かったご家族へ」⇒「主張するセルフ・アドボケートたち」